

令和 2 年  
11月27日

# 病虫害発生予報 12月号

茨城県病虫害防除所  
茨城県植物防疫協会

今年の防除日誌を整理・確認して作業内容を振り返り、  
来年のよりよい防除につなげましょう！

## < 目 次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病虫害】

イチゴ：ハダニ類	1
促成ピーマン：斑点病	1

#### 【その他の病虫害】

イチゴ，促成ピーマン，共通害虫	2
-----------------	---

### II. 今月の気象予報 . . . . . 3

最新の農薬登録内容は、(独) 農林水産消費安全技術センターホームページの  
「農薬登録情報提供システム」([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)) で  
確認することができます。

詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病虫害防除所 Tel :0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス

<https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/boujosidou2/>

<HP QR コード>



# I. 今月の予報

## 【注意すべき病害虫】

### イチゴ

#### 1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、寄生葉率（本年値 7.5%，平年値 7.6%）、発生地点率（本年値 60%，平年値 53%）ともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いため、発生の少ないうちに防除を徹底する。  
② 薬剤散布は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、気門封鎖剤以外については、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。なお、薬剤散布は、古い下葉を除去してから行うと効果的である。  
③ ミツバチや天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を使用する。

### 促成ピーマン

#### 1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 11月下旬現在、発病度※（本年値 6.0，平年値 0.6）、発生地点率（本年値 75%，平年値 15%）ともに平年より高い。

※発病度：株ごとの発病程度をもとに算出した数値、最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿条件で発生しやすいため、整枝、換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。  
② 発生が多くなると防除が困難になるため、初期防除を徹底する。  
③ 罹病部はできるだけ取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。  
④ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、FRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。  
⑤ 天敵を使用する場合は、影響の小さい薬剤を選択する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
イチゴ	うどんこ病	発生量：やや少ない	11月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	アブラムシ類	発生量：やや多い	11月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
促成ピーマン	うどんこ病	発生量：やや少ない	11月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
	アザミウマ類		
共通害虫	ハスモンヨトウ	発生量：－	11月下旬現在，イチゴ及び促成ピーマン圃場で発生を認めている。直近一か月間のフェロモントラップの総誘殺数は，一部地域で平年よりやや多い。

## II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 11月28日から12月27日)

気象庁(11月26日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	40	30
降水量	関東甲信全域	40	40	20
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<1週目の予報> 11月28日(土曜日)から12月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<2週目の予報> 12月5日(土曜日)から12月11日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

<3週目から4週目の予報> 12月12日(土曜日)から12月25日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より低い確率40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類<sup>※</sup>(FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(令和2年4月24日発表)の防除所レポート参照